

第1回 モーダルシフト促進のための貨物鉄道の輸送障害時の代替輸送に係る 諸課題に関する検討会 議事概要

1. 日時

平成27年2月25日（水） 15:00～17:00

2. 場所

中央合同庁舎3号館11階特別会議室

3. 議事概要

1. 事務局より、鉄道へのモーダルシフトの状況及び検討にあたっての問題意識について、日本貨物鉄道(株)及び貨物鉄道利用者3社より輸送障害への対応状況と課題について、発表を行った。

2. 委員からは全体を通じ、以下のような発言があった。

○輸送障害発生時は、代替輸送の要否に係る判断が遅れないよう、復旧に関する情報は出来るだけ早期に提供してほしい。

○迂回輸送を実施するため、代替駅使用準備の迅速な実施や、コンテナ蔵置用のスペースの確保等、代替輸送のための環境整備の実施が必要。

○災害リスクを軽減するためには、過去災害が発生している箇所のほかにも、過去に災害が発生していなくても土砂崩れが起きやすいポイント等、着目して留意する必要があるのではないか。

○輸送障害発生時の対応について、予防的に想定して必要な対策を打つだけでなく、災害が起きるリスクがあるところへの予防策も重要。

○輸送障害は、障害が起きる区間によって、貨物輸送へ及ぼす影響が大きく異なる。重要性が高いのはどこであるかを考えて、そのためのリダンダンシーをどう確保するか、という議論が必要ではないか。

○輸送障害発生時、復旧の見込みや現状についての情報があるほど、代替性、選択性が増す。正確な情報を早く出すシステムをどう作るか、ということも課題の一つ。

○鉄道とトラックを選択しやすい状況と、そうでない状況もあり、会社の違いだけでなく、貨物の品目や特性によっても変わってくる中、トータルの物流で考えて、選択性を上げていくための情報提供のシステム作りが大事であると思う。その中で、利用通運事業者等のサードパーティーのプレイヤーの役割も重要である。

以上（文責 事務局）